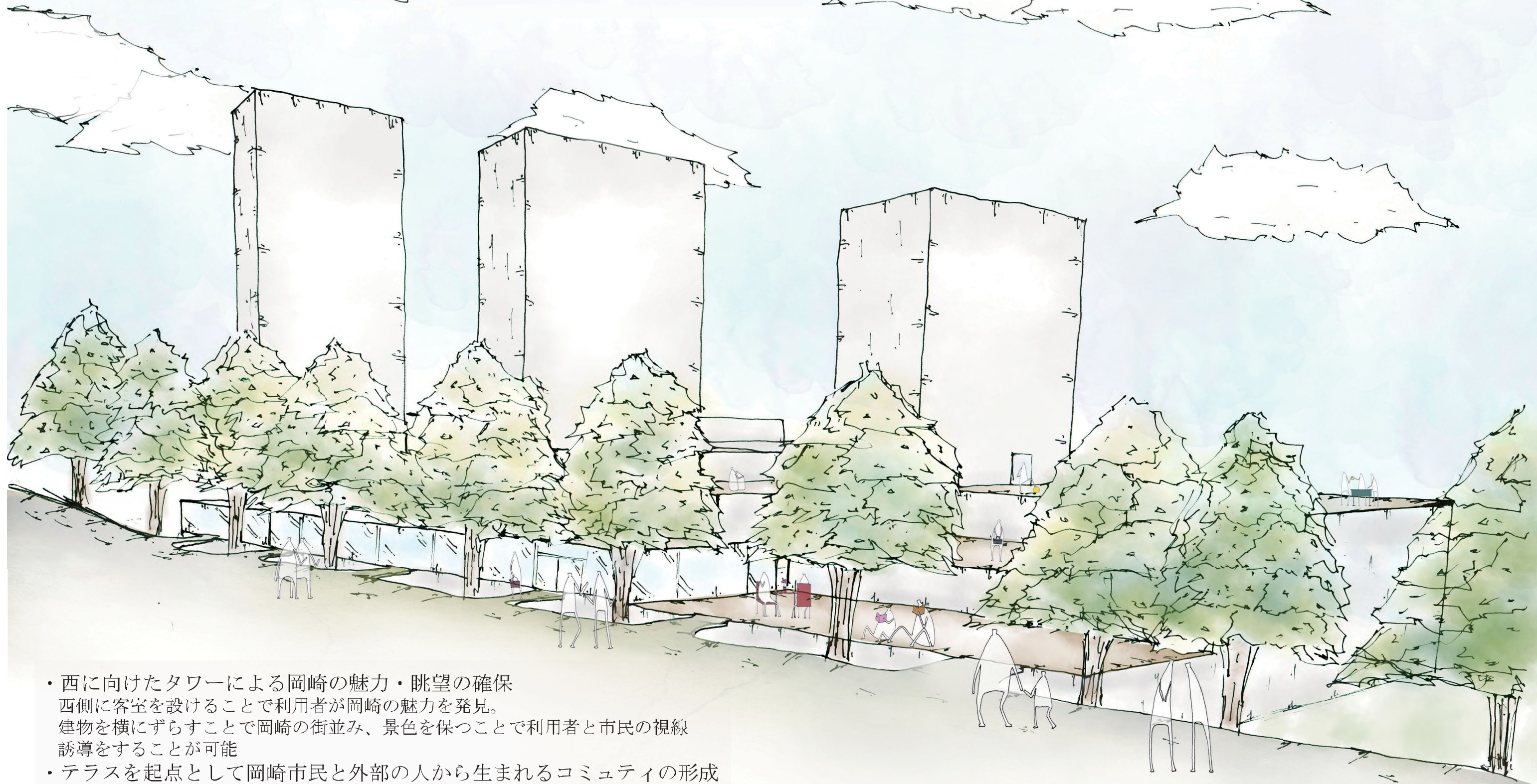


B3 200%

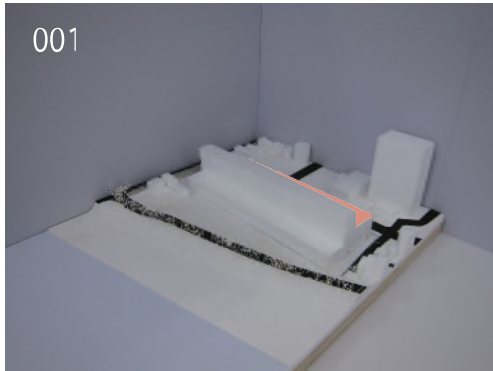
Otogawa Sequence Towers

~南北に伸びるタワーとテラスによって岡崎の魅力に溶け込む~

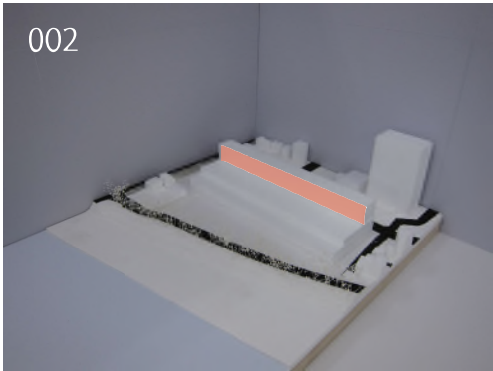


- 西に向けたタワーによる岡崎の魅力・眺望の確保
西側に客室を設けることで利用者が岡崎の魅力を発見。
建物を横にずらすことで岡崎の街並み、景色を保つことで利用者と市民の視線誘導をすることが可能
- テラスを起点として岡崎市民と外部の人から生まれるコミュニティの形成
川側にテラスを伸ばすことで川からの人を引き込みや、ホテル利用者、岡崎市民を呼び込むことができる。これにより川を起点とした様々なコミュニティの形成が生まれる。

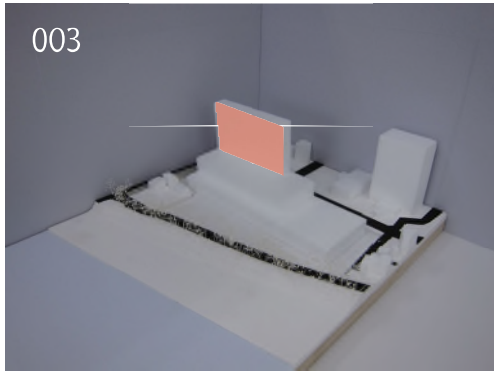
process



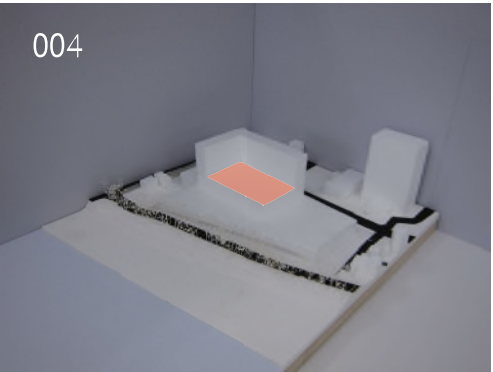
発見：高層の抜け
課題：南のデッドスペース



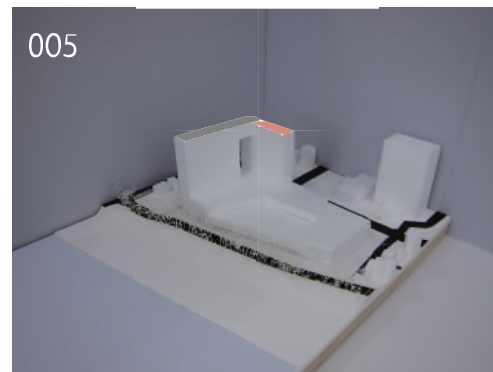
発見：すべての客室が川を向く
課題：壁感が強い



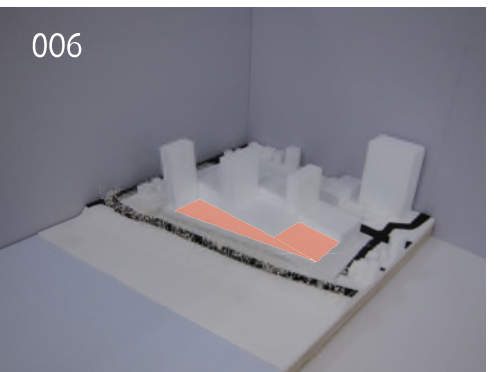
発見：周囲の景色が抜ける
課題：タワーの南北の圧迫感



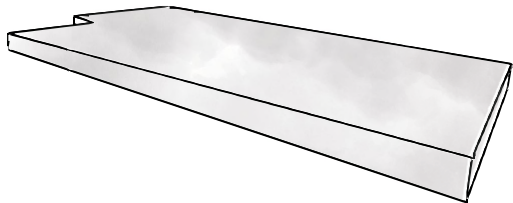
発見：門としてのシンボル性
課題：テラスの使用法



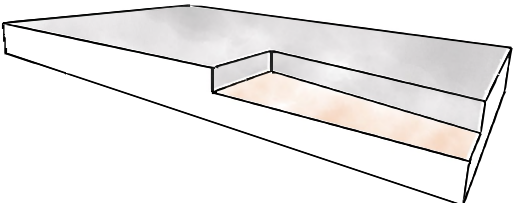
発見：テラスの三方向アクセス
課題：L字の収まりが悪い



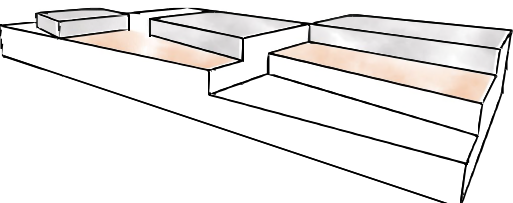
発見：相互のビューと迎え入れるテラス



1. 土手に沿って引き込む
ようにボリュームを配置



2. 土手から直接繋がる
テラスを囲むように配置

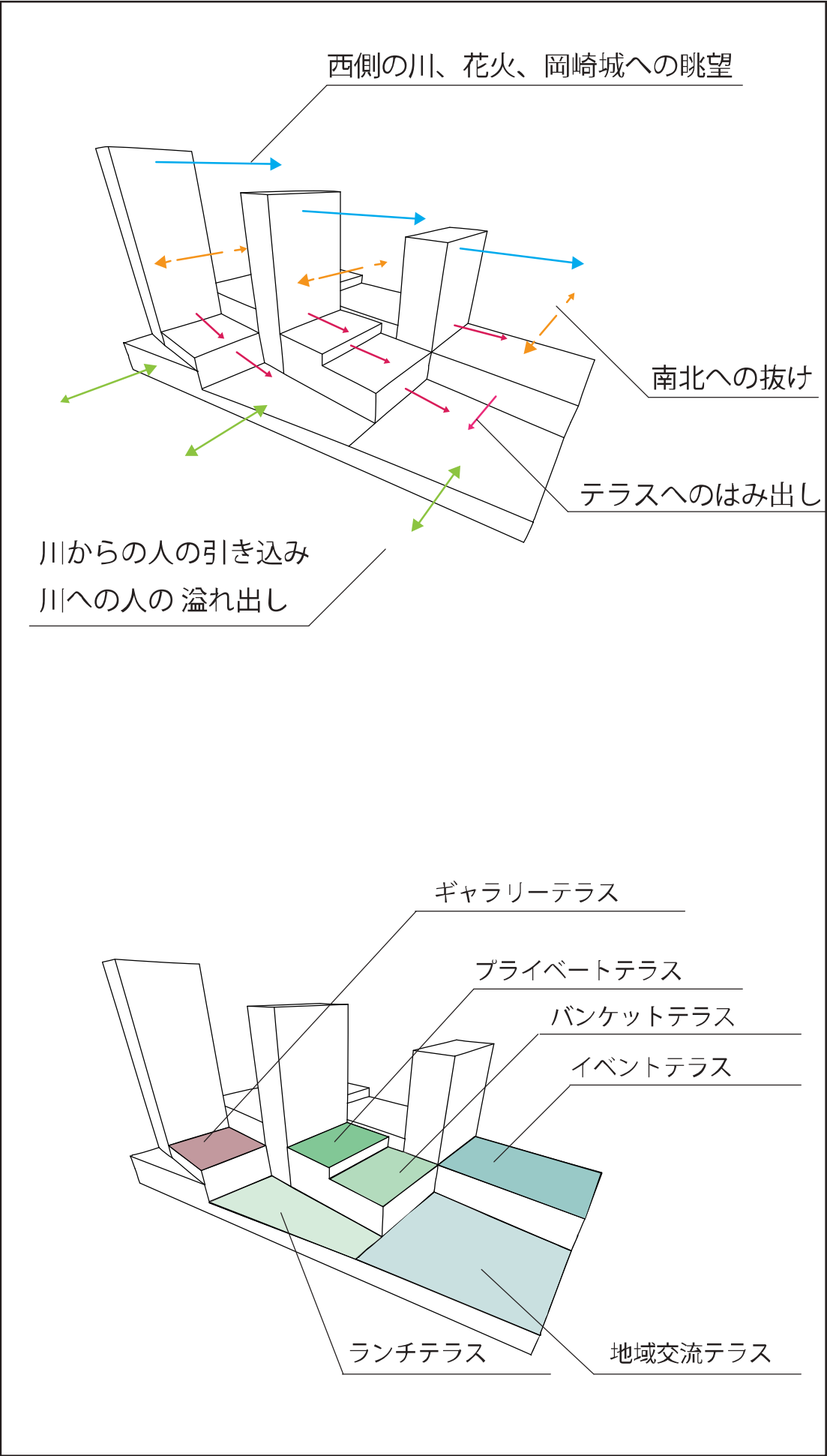


3. 川の駅やレストランの人が
テラスにはみ出す

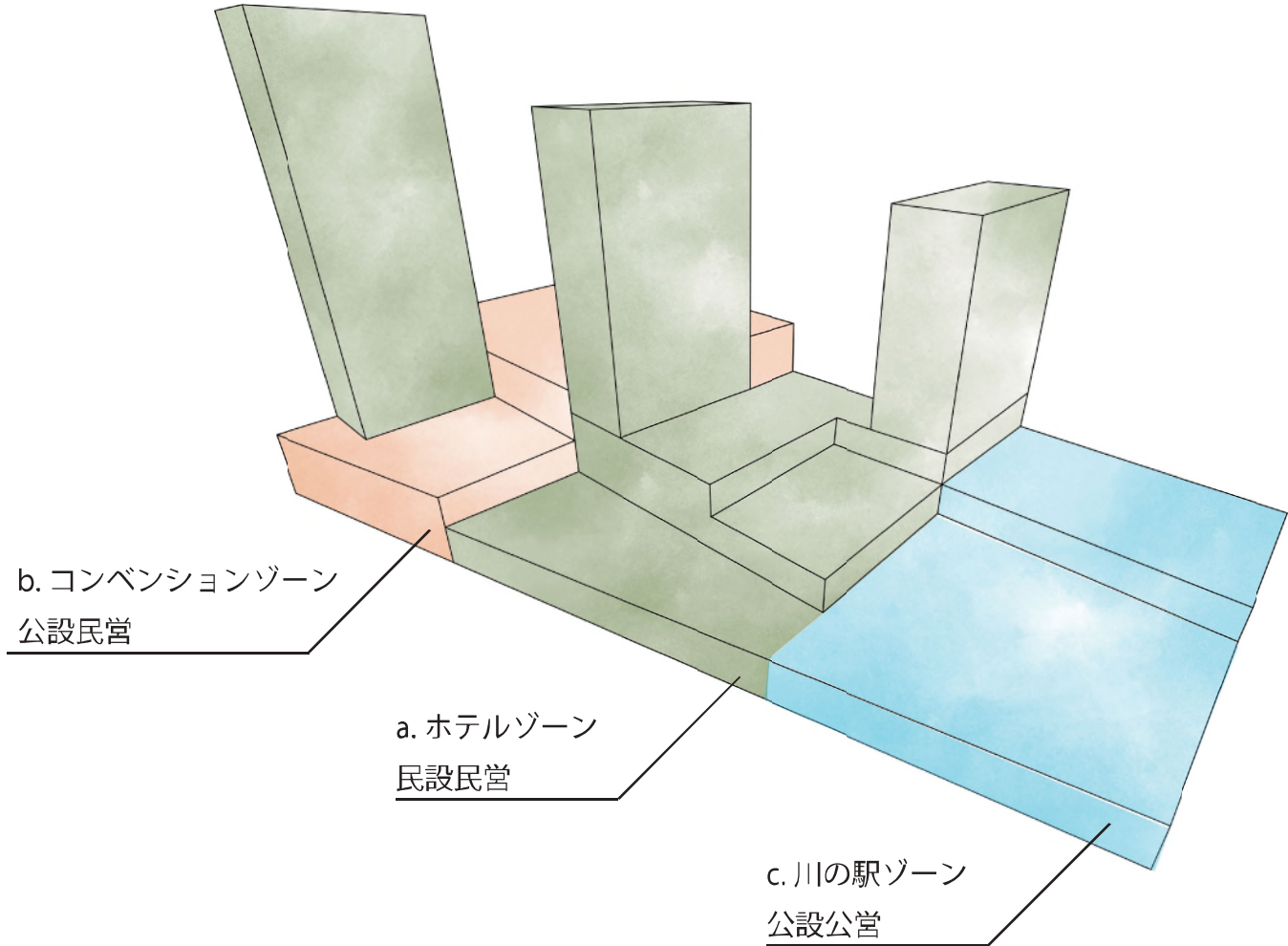
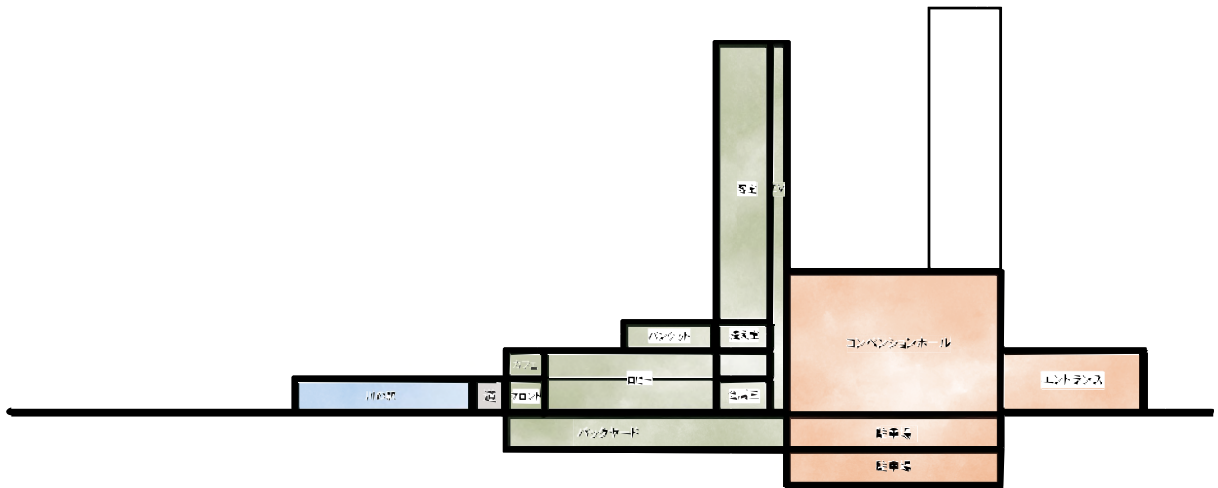
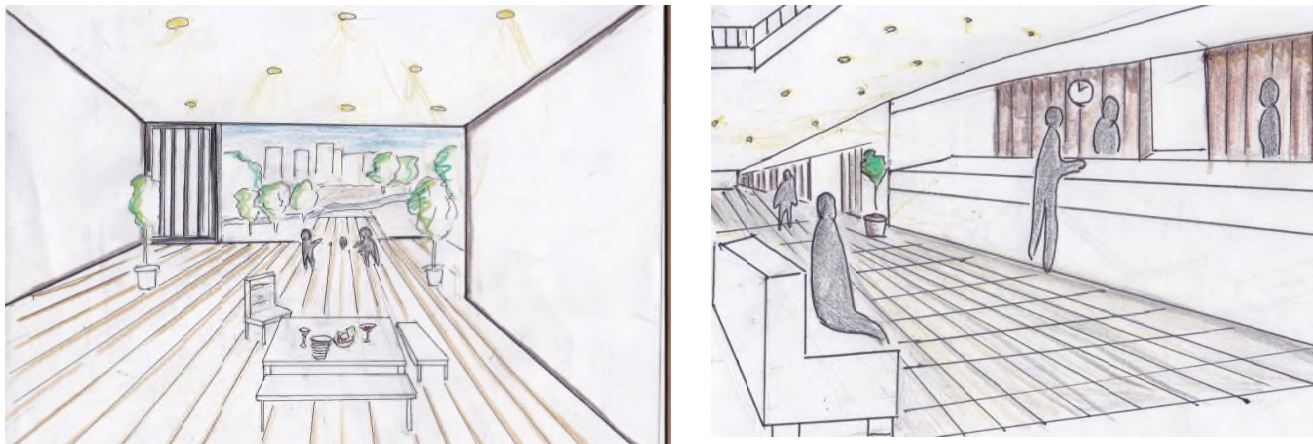
4. 上へと人を引き込むように
ヴォリュームが配置される

5. コンベンションホールが
西面から人を引き込む

6. 景観を考慮したタワーが
立ち上がる



diagram

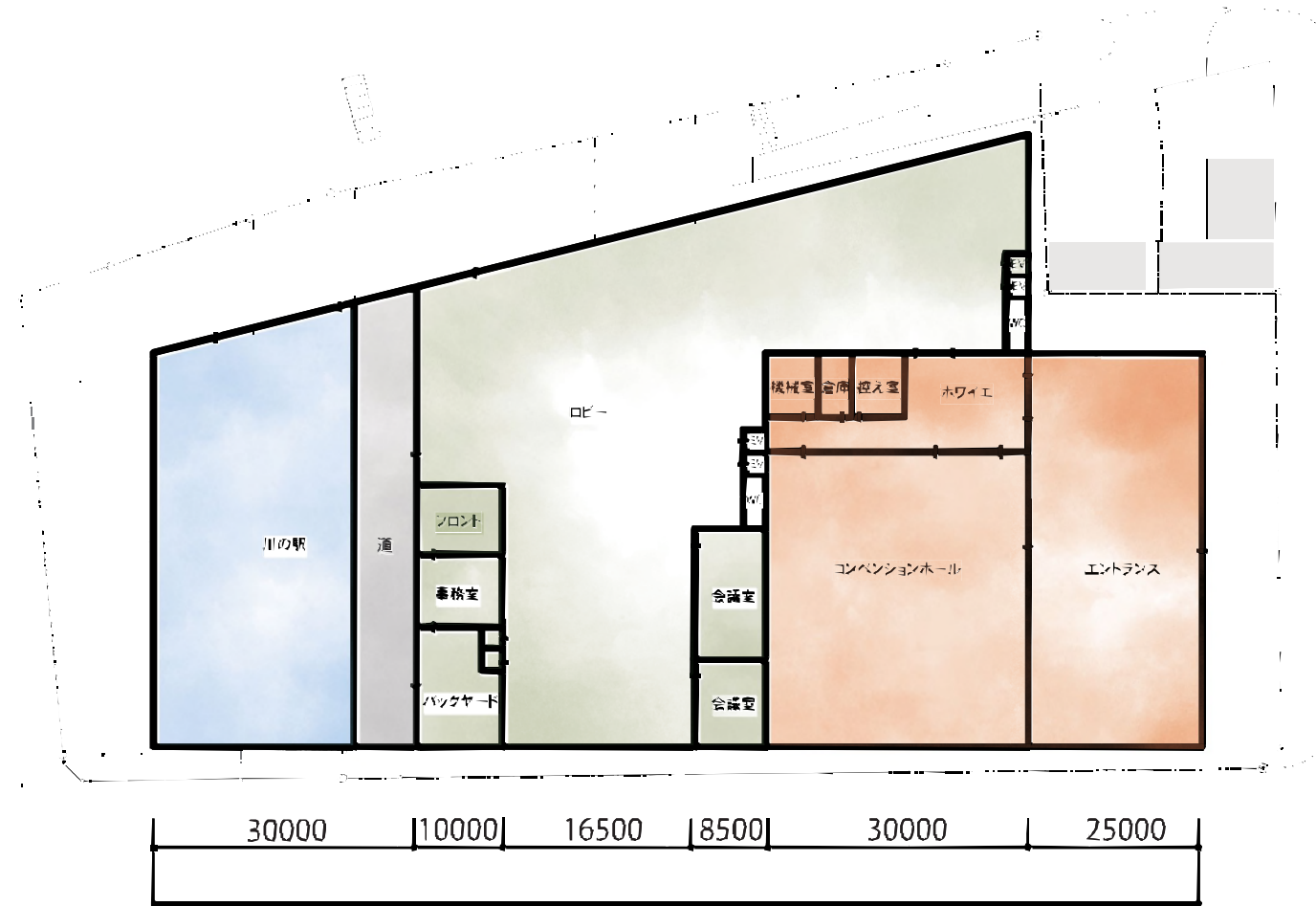
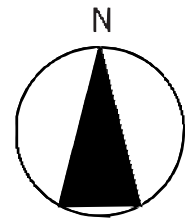


建設・運営を委託する組織ごとに建築全体をゾーン分けすることにより、動線を明確にし、混在せず、機能の配置をわかりやすくすることで利用しやすいようにした。

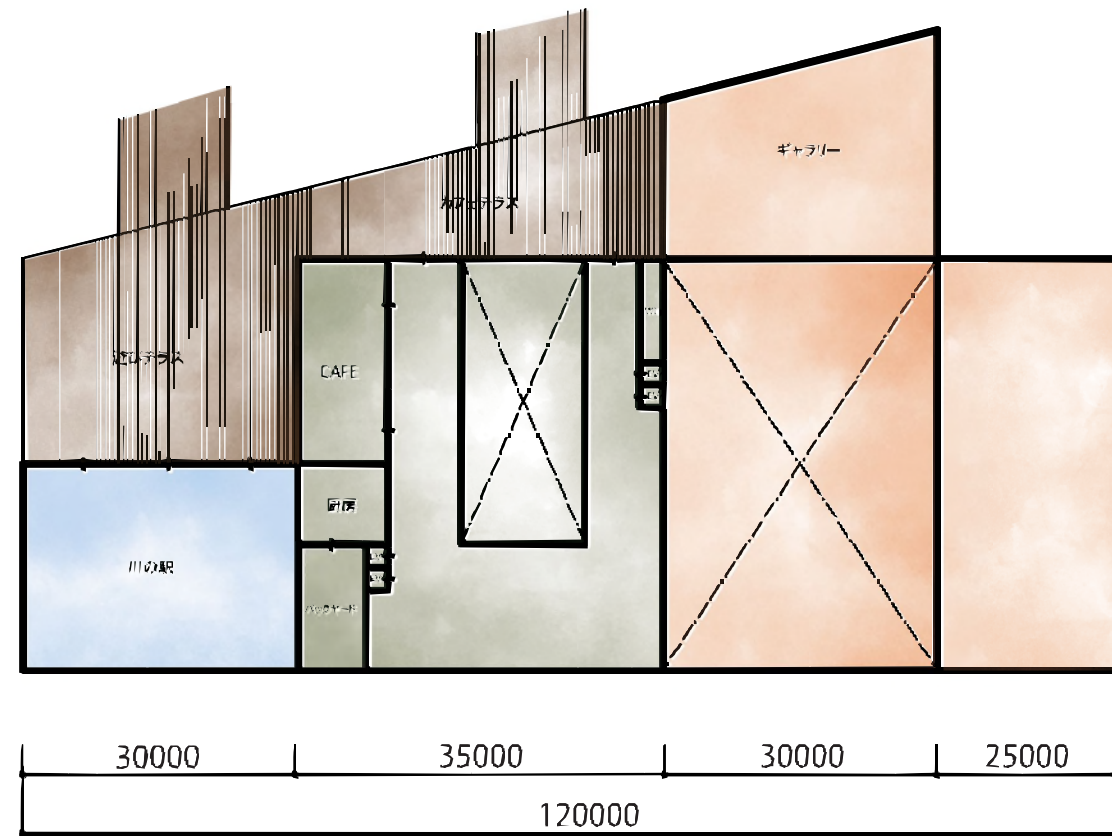
容積率 200% 面積表

		容積(㎡)	部屋数・台数	階数	層の種類	天井高(m)	合計
a	ホテル	6975	190室(3x6m)	4-13F	タワー部	3	16190
	ロビー	3,420	-	1F	//	5	
	バンケット	305	-	3F	//	4	
	エントランス	900	-	1F	//	9	
	小会議室	390	3室	3F	//	4	
	大会議室	380	1室	3F	//	4	
	カフェ	310	-	2F	//	4	
b	コンベンション	1,350	1室	2F	基壇部	4 or 20	5320
	ギャラリー	630	-	2F	//	4	
	駐車場	2,700	135	1F	//	5	
	バックヤード	640	-	1-2F	//	5	
c	川の駅	2,130	-	1-3F	//	4	2130
	その他	455	-	-	-	-	455
	計	19,820					19820

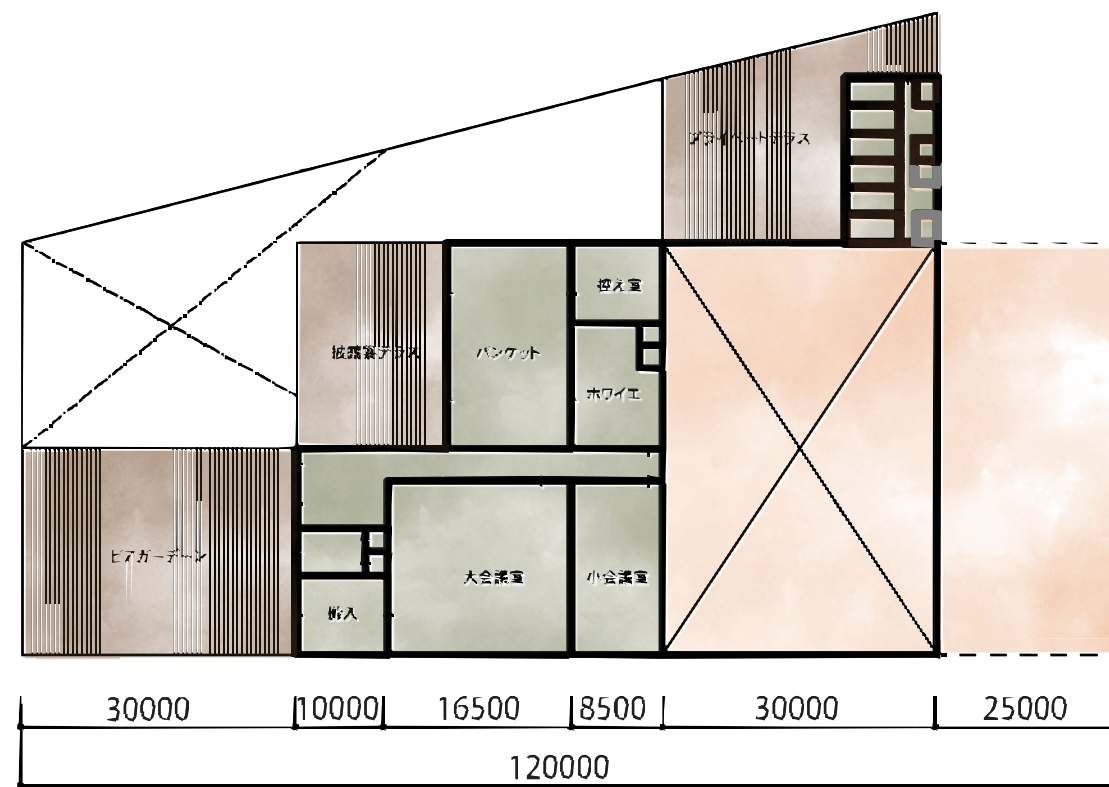
plan



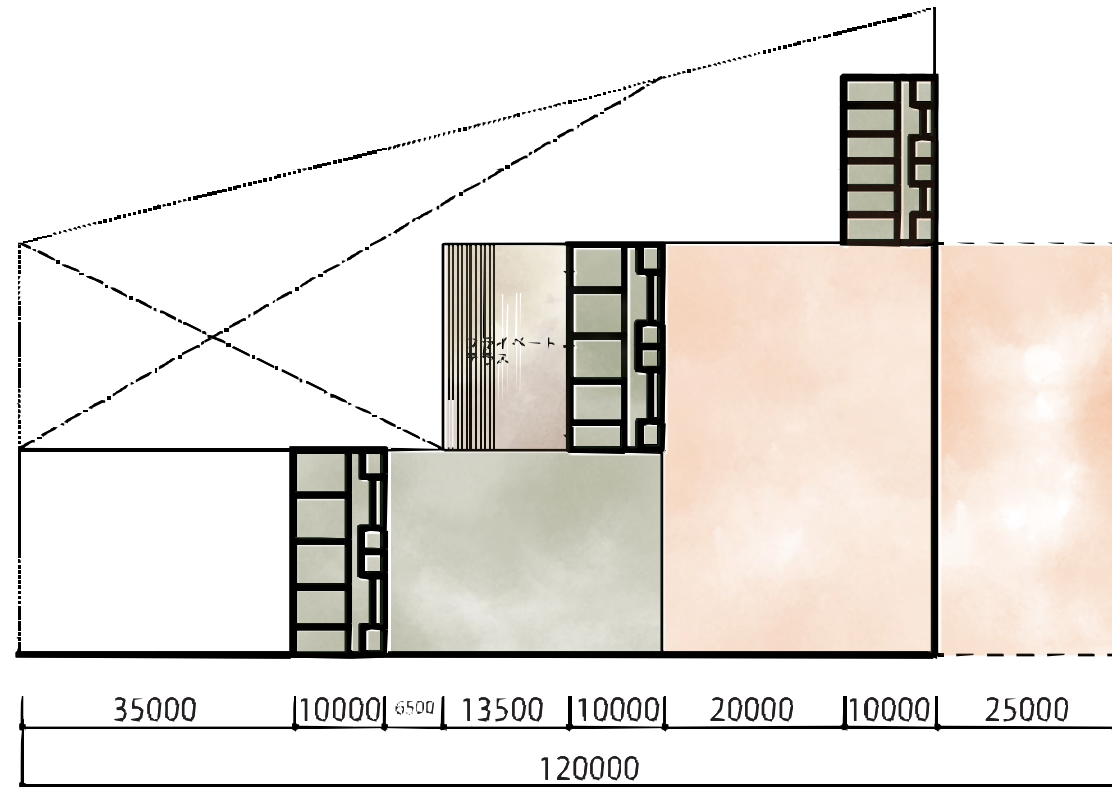
平面図1F 1/800



平面図2F 1/800

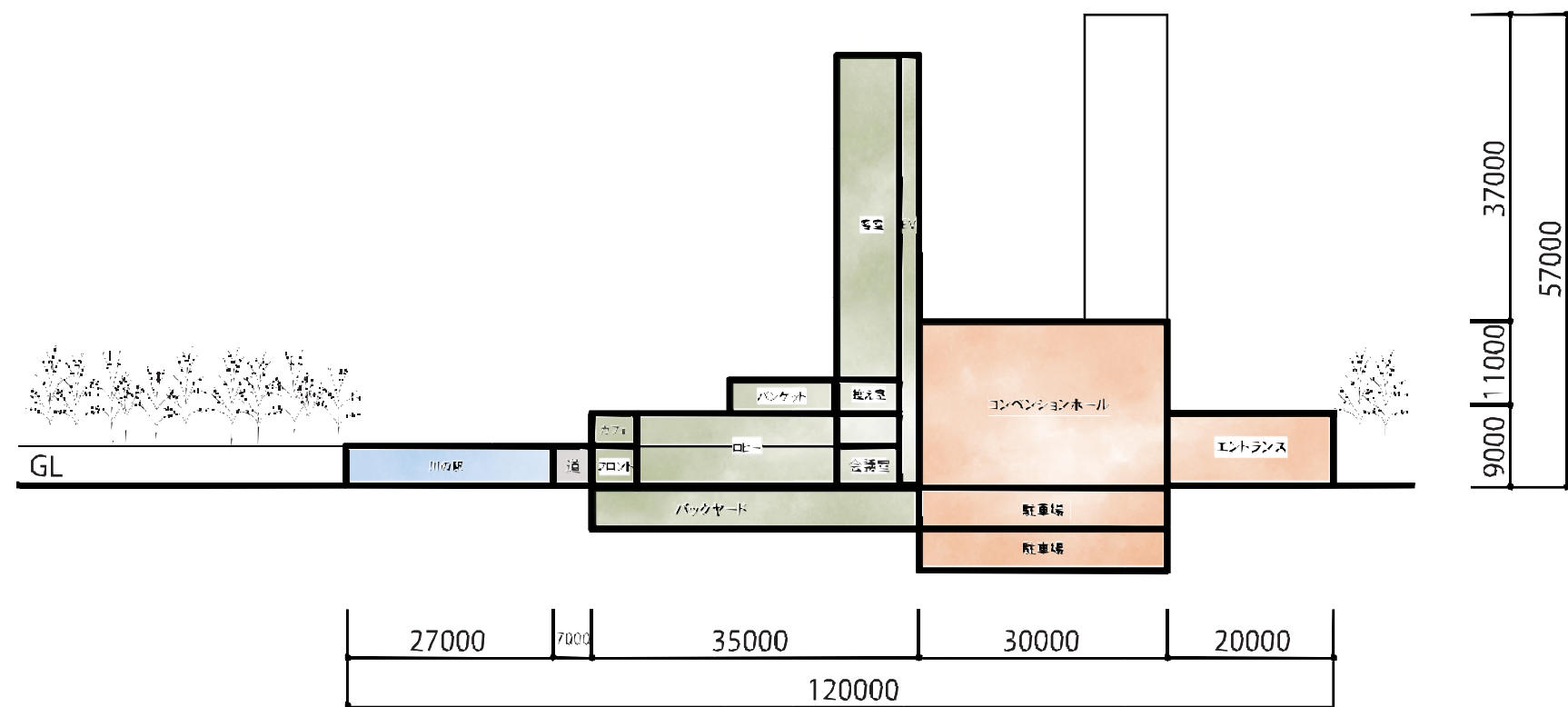


平面図3F 1/800

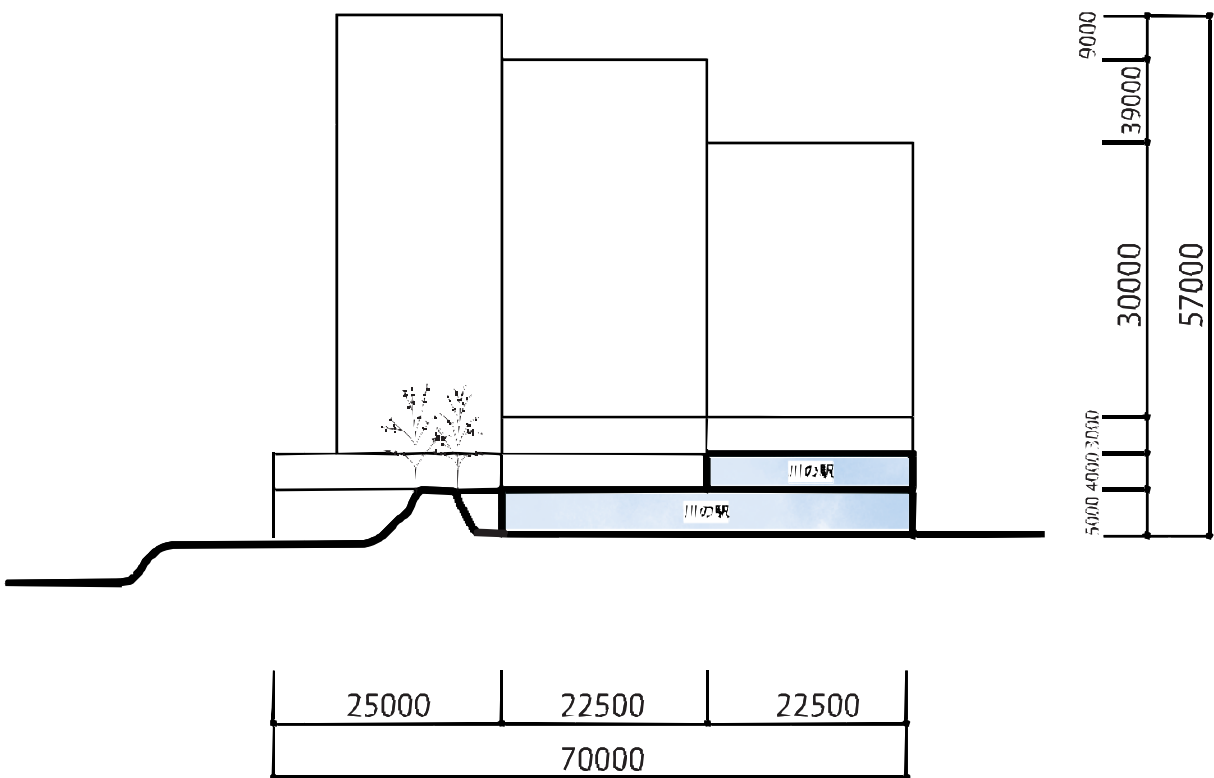


平面図4F 1/800

section

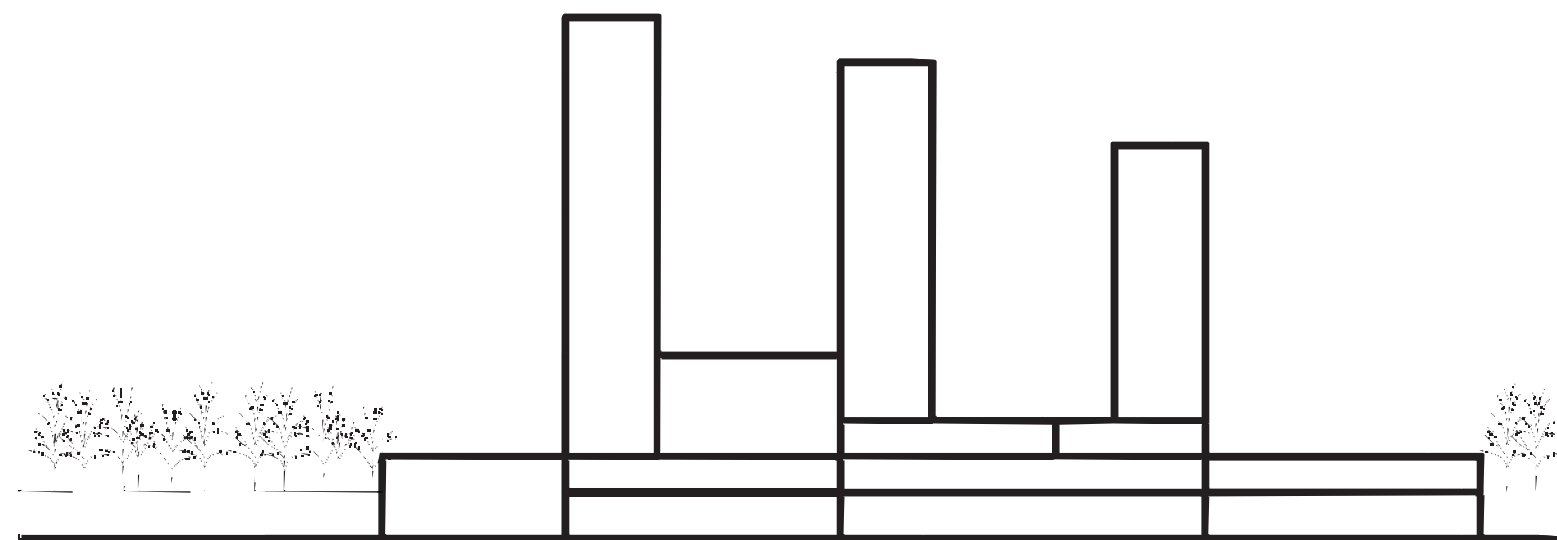


東西断面図 1/800

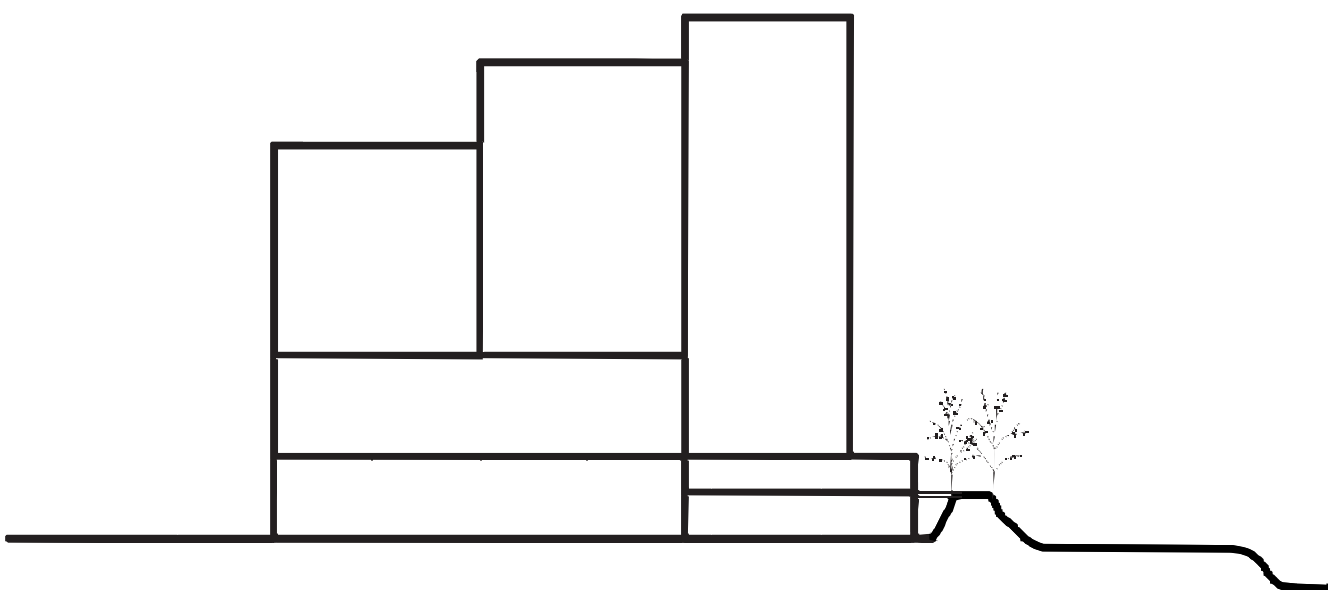


南北断面図 1/800

elevation



南立面図 1/800



東立面図 1/800